

The background image shows a tall, dark clock tower with two clock faces, one of which is blue with white numbers. The tower is set against a backdrop of trees with vibrant autumn foliage in shades of orange, yellow, and red. In the foreground, there is a street scene with a white bus, a dark car, and a white taxi. The entire image is overlaid with a semi-transparent blue banner that contains the text.

(仮称)南区複合庁舎整備に係るワークショップ

事業概要について

2025/3札幌市市民文化局地域振興部区政課

事業概要について

1. (仮称)南区複合庁舎整備事業について
2. 真駒内駅前地区まちづくり計画について
3. 複合化する施設について

事業概要について

1. (仮称)南区複合庁舎整備事業について
2. 真駒内駅前地区まちづくり計画について
3. 複合化する施設について

(仮称) 南区複合庁舎整備事業について

老朽化した南区役所を、地域の核となる交流機能や図書館機能と集約複合化した庁舎として、南区の拠点と位置付けた真駒内駅前地区に整備するものです。

南区役所



南保健センター



南区民センター
真駒内まちづくりセンター



教育支援センター
教育相談室



区保育・子育て支援センター
(通称 ちあふる)



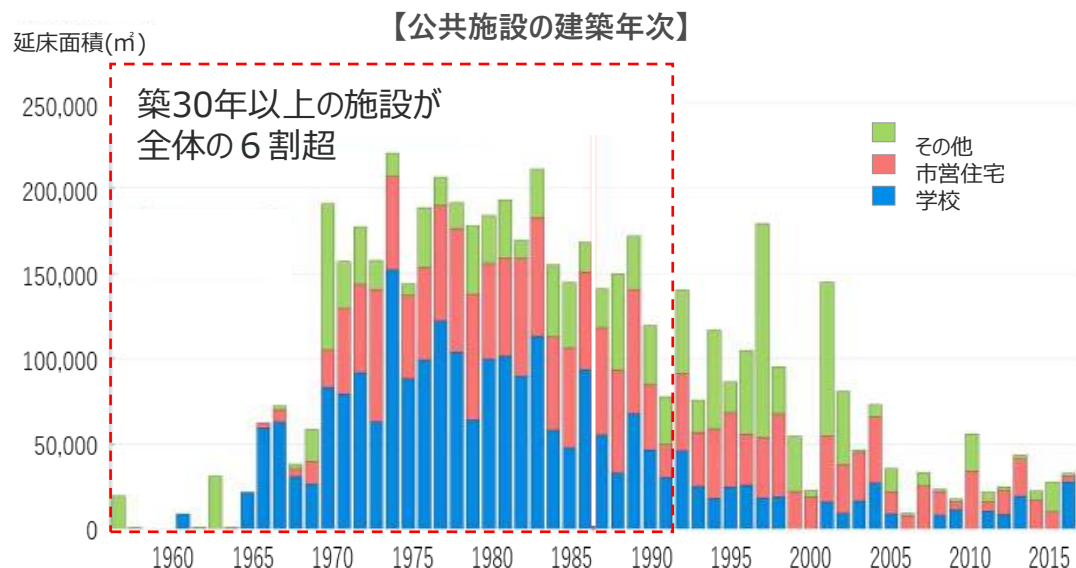
澄川図書館



※複合化予定の機能は検討段階であり、 確定事項ではありません。

なぜ公共施設を集積・複合化するのか

- 公共施設の老朽化や一斉更新需要への対応が必要
- 人口減少、少子高齢化の進行
- 全ての施設を同規模で維持し続けることは困難
- 公共施設マネジメント
 - ・長寿命化による更新需要の平準化
 - ・更新の際は集約複合化により機能を維持しつつ施設総量を抑制



⇒1970年代から集中的に整備。一斉更新需要への対応が必要な状況

二条小学校（2017年3月完成）
小学校×まちづくりセンター×児童会館



中央区複合庁舎（2025年2月完成）
区役所×区民センター×保健センター



事業手法・事業スケジュール

PFI

民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・維持管理・運営などを行う公共事業の手法

- 民間企業のノウハウを活用し、従来より優れた品質の公共サービスを提供
- 民間の収益施設が参入する可能性（利便性向上・財政負担軽減）
- 事業者を選定する前の基本計画や要求水準の整理が大切



※事業手法や事業スケジュールは確定事項ではありません。

事業概要について

1. (仮称)南区複合庁舎整備事業について
2. 真駒内駅前地区まちづくり計画について
3. 複合化する施設について

真駒内駅前地区まちづくり計画について

真駒内地域はもとより南区全体の拠点として真駒内駅前地区を再生するため、**土地利用再編の方向性を具体化する「まちづくり計画」**を令和5年11月に策定しました。

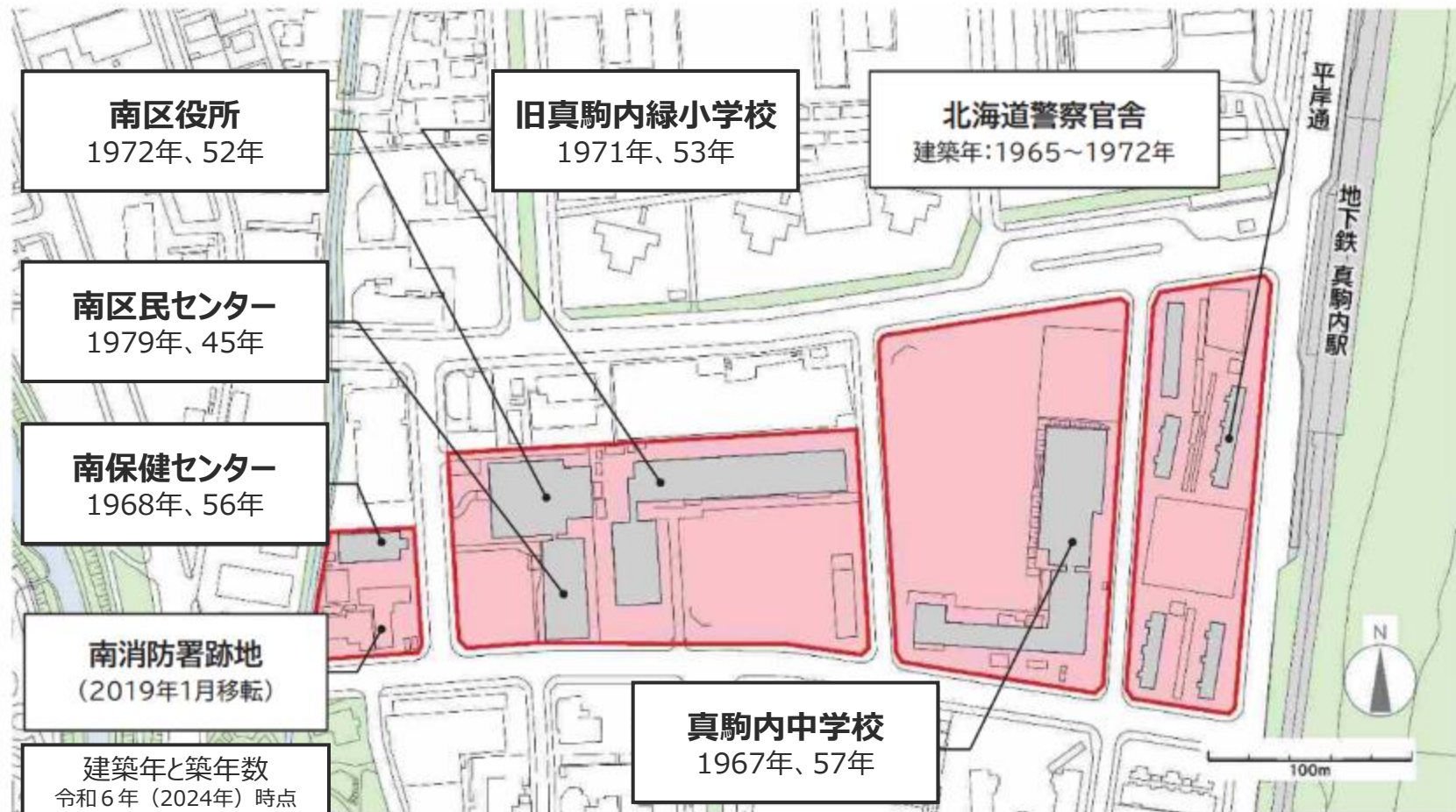


各街区の詳細は、
次頁以降をご参照ください。

よろしければ、
真駒内駅前地区まちづくり計画
本体もご覧ください！

対象区域

真駒内駅周辺のうち市有施設等が集積した区域



A街区

- 北海道警察宿舎用地と真駒内中学校用地の約2.8ha。
- A街区は真駒内地域の顔となる街区であり、まちのにぎわいや交流を創出する上で極めて重要な役割を担う。
- 南区民の豊かな生活を支える都市機能の集積を目指す。



A街区

【駅直近に配置する機能】

- ▶ 交流広場
- ▶ 交通広場

【A1街区に導入を図る機能】

- ▶ にぎわいの核となる商業系の機能
(買い物、飲食、サービスなど)
- ▶ 交流広場と連携し地域コミュニティの
形成に資する機能 など

【A2街区に想定される多様な機能】

- ▶ A1街区を補完する商業系の機能
(買い物、飲食、サービスなど)
- ▶ 医療・福祉系の機能
- ▶ 業務機能
- ▶ 住居系機能 など



<導入が期待される機能の地域意見例>

- 食料品や日用品が揃う店舗
- バス待ち時間に気軽に立ち寄れるカフェ、飲食店
- 子どもが遊べる空間
- 勉強や打合せができるスペース など

交流広場 ～人々の交流・にぎわいの創出を促す広場空間～

- ▶ 人々の滞留・交流を促す空間
- ▶ 地域イベントの開催
- ▶ イベントや観光案内などの情報発信
- ▶ 災害時の一時避難場所

<交流広場の使われ方に関する地域意見例>

- 待ち合わせや、ベンチ等で会話を楽しむ交流の場
- 盆踊りやアイスクャンドルなど四季折々のイベント
- 南区各地域の観光情報発信
- 屋台やキッチンカーが並んだフードショー
- 地産地消のマルシェ
- スポーツのパブリックビューイング
- 新たなチャレンジを実現するスペース
- 多くの人が集まるシンボルの設置
- 学びの成果を発表するなど、学生と地域が交流する場



商業施設と一体的に活用された広場の様子



イベントが開催されにぎわう広場の様子
(札幌市 北3条広場)

B1街区

- ・現在まこまる(旧真駒内緑小学校)が立地する街区(約1.3ha)。
- ・真駒内駅からも比較的近接していることから、**区役所をはじめとする南区内の行政・公共機能の集積・複合化**し、**アクセスを向上**させる。
- ・**来庁者の利便性向上**を図るとともに、多世代が交流できる**地域コミュニティ機能を強化**する計画です。



■B1:行政機能・公共サービス機能の集積・複合化

- ・南区役所
- ・南区民センター
- ・真駒内まちづくりセンター
- ・南保健センター
- ・教育支援センター
- ・教育相談室
- ・南区保育・子育て支援センター
- ・澄川図書館

※複合化対象施設は、検討段階であり、確定事項ではありません。

B2街区・C街区

- B2街区は現在区役所と区民センターが立地する街区(約0.5ha)、C街区は保健センターが立地する街区(約0.3ha)です。
- 現行の行政施設をB1街区に整備する行政・公共施設へ移転し、現区役所等を解体の後の着手となることから、事業化までに期間を要します。



■B2・C:真駒内独自の魅力を 活用・向上させる機能の導入

- A街区を補完する機能
➢ 商業、医療・福祉、住宅など
- 教育機能や創造活動に資する機能
- スポーツなど健康づくりに資する機能
- B1街区以外の公的機能 など

※導入機能については、現在、真駒内駅前地区まちづくり計画を基に検討を進めています(上記は検討中の機能の例)。

事業概要について

1. (仮称)南区複合庁舎整備事業について
2. 真駒内駅前地区まちづくり計画について
3. 複合化する施設について

区役所・保健センター

- 区役所では、戸籍・住民票・市税証明、国民健康保険・国民年金等についてサービスを提供しています。保健センターでは、飲食店・食品販売の申請、子育てサロン・子育て相談、保育所入所手続、検診・健診等を実施しています。
- 現在は別棟ですが、本事業において複合化して、来庁者の利便性を向上させます。

南区役所



建築年:1972年(築52年)
延床面積:約4,629㎡
来庁者数:約1,000人/日

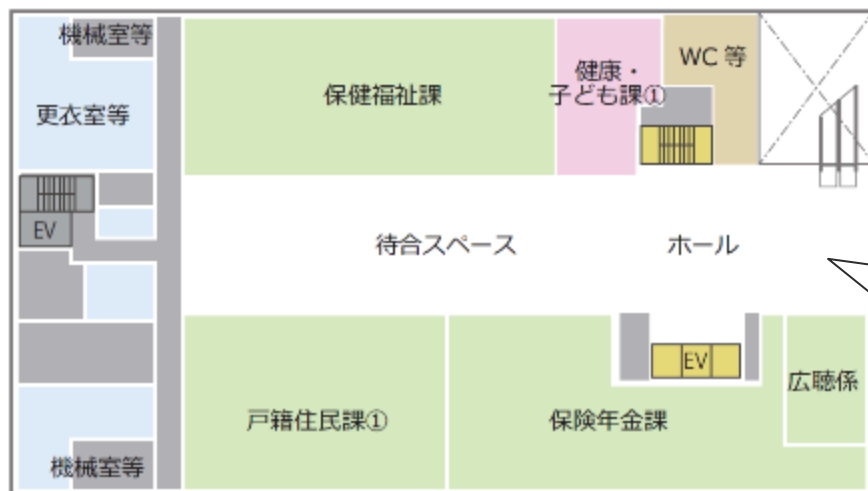
南保健センター



建築年:1968年(築56年)
延床面積:約1,572㎡
来庁者数:約100人/日

参考：行政窓口のトレンドと札幌市の取り組み

行政窓口は、来庁者の利便性を向上させるために、**手続等のための窓口を集約したり、ワンストップに窓口サービスを提供することが、近年のトレンド(傾向)となっています。**



中央区複合庁舎では、3Fまでエスカレーターを設け主要な行政窓口をワンフロア化し、来庁者の利便性を向上しています。

そのほか、来なくてもいい区役所を目指し、住民票や印鑑証明などのコンビニ交付や郵送サービスを導入しています。さらに今後はオンラインで完結できる行政手続きを拡充していきます。

区民センター

- 地域住民のコミュニティ活動の場、生涯学習の場、地域住民の福祉増進の場としての役割を担っています。
- 区民ホール、視聴覚室、料理室、和室、会議室等があり、講習会や講演会等を実施しています。



建築年:1979(築45年)
延床面積:約3,051㎡
来庁者数:約250人/日



参考：区民ホールの設え



南区 体育室形式
可動ステージ
講演会、発表会
運動(球技系でのご利用×)

南区に文化ホール建設を求める嘆願あり
(H28・H31の2回 署名計20,104名)

他区事例 ホール形式
固定式ステージ
移動観覧席
講演会、発表会、音楽活動など



災害時の施設

災害時には、区役所が災害対策本部として、保健センターが応急救護センターとして、区民センターのホールが避難所として機能することを想定しています。

災害時における施設活用イメージ

区役所

保健センター

区民センター
のホール

災害時には

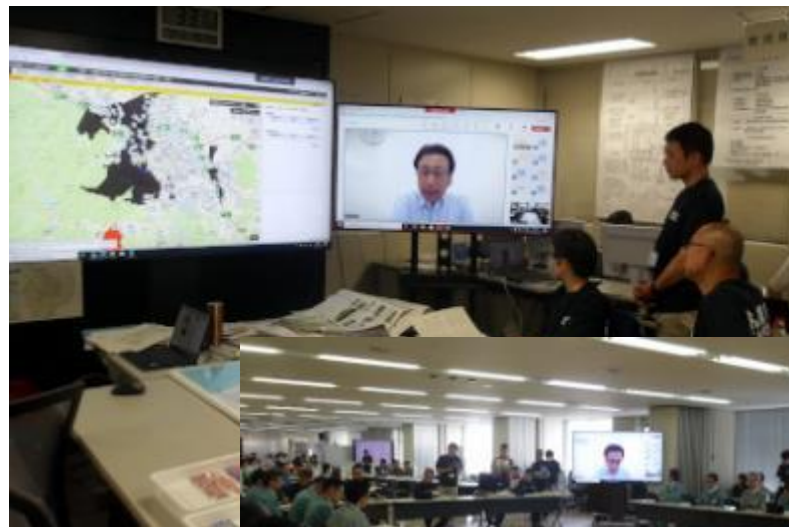
災害対策本部

応急救護
センター

避難所



災害対策本部のイメージ



※写真は、災害対策本部運営訓練の様子です

図書館

- ・ 澄川図書館の蔵書数は、約7.4万冊で、貸出冊数は、約13万冊/年です。
- ・ 読書活動の推進だけでなく、地域の学びと情報の拠点としての機能強化が求められています。

澄川図書館



建築年:1983年(築41年)
延床面積:約1,200㎡
来庁者数:約250人/日

1 階



閲覧席：図書館 26 席（一般 20・児童 6）

2 階



閲覧席：44 席（閲覧室 24・ロビー 20）

参考：図書館のトレンド（傾向）

- ・ 図書館を核としたまちづくりの事例が各地に生まれ、多世代交流・にぎわいの場となっています。また、図書館が提供する機能・サービスも多様化しています。
- ・ 札幌市で近年整備された図書館では、下記のとおり便利で役立つ機能・サービスが導入され、図書館利用が少なかった若年層を中心に多く利用されています。

■親子で声を出して本を読める空間



（えほん図書館）

■会話可能な館内と区切られた静寂エリア



（図書・情報館）



■自動貸出機



（えほん図書館）

■定期的に変わる図書展示



（えほん図書館）



（図書・情報館）

■座席予約システムの導入



（図書・情報館）

教育支援センター、教育相談室

- 教育支援センターは、不登校状況にある児童生徒一人一人の改善の状況に合わせて、学校への登校意欲が高まるよう支援しています。
- 教育相談室は、小学校から高校生までの教育に関わる相談を幅広く受けています。



教育支援センター学習室



教育支援センター軽運動室

ちあふる

- ・ 保育機能に加え、様々な子育て支援に関するサービスを提供する施設であり、子育て相談、子育てに関する情報提供、読み聞かせや季節の行事、絵本、書籍の貸出などを実施しています。
- ・ 子育てサロンでは、就学前の子どもと保護者の方、これから親になる方などと自由に集い、ゆったりと遊びながら、地域の親子やボランティア、学生などと交流ができる場所を提供しています。



複合施設の共用部や民間施設導入の事例



中央区複合庁舎

1F区民ホール前に、ラウンジやギャラリースペースを配置
1Fに物販施設(コンビニ)を配置



複合施設の共用部や民間施設導入の事例



図書・情報館(札幌市民交流プラザ)

共用部に勉強や読書ができるフリースペース

図書館の本を持ち込めるカフェ

